

平成24年度 太平洋いwash類長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
中央水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成25年4月～7月)のポイント

海況

潮岬以東の黒潮は、4月以降はB・C型を繰り返す。
沿岸水温は、潮岬以西が「平年並」～「高め」、
熊野灘～伊豆諸島北部海域が「平年並」～「低め」、
鹿島灘～常磐南部海域が「高め」で推移する。

※ B型：非大蛇行接岸流路（流路の南端が北緯32度以北かつ33度以南）

C型：非大蛇行離岸流路

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、

高め＝平年値+1.5℃程度、低め＝平年値-1.5℃程度

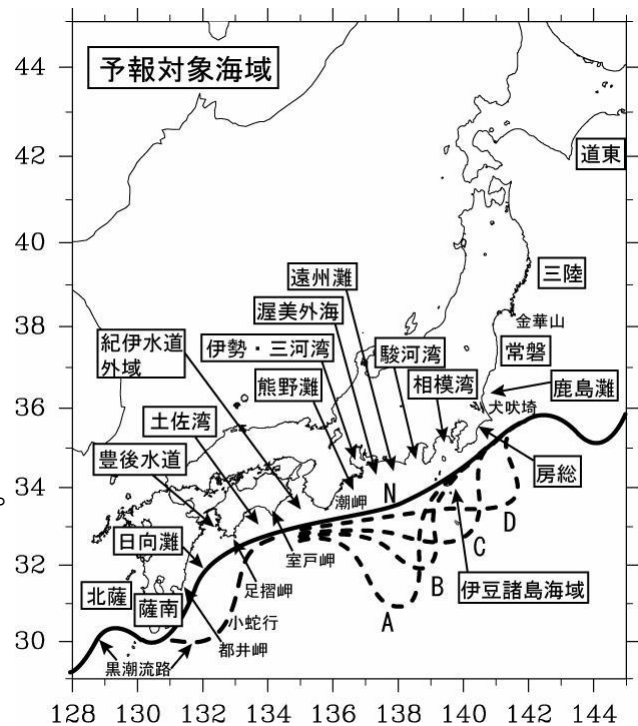
漁況(来遊量予測)

マイワシ

日向灘～土佐湾では前年を下回るが、
それ以外の海域では前年並～上回る場所が多い。

カタクチイワシ

総じて前年を下回るが、
海域によっては前年並～上回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、中津

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 業務推進部

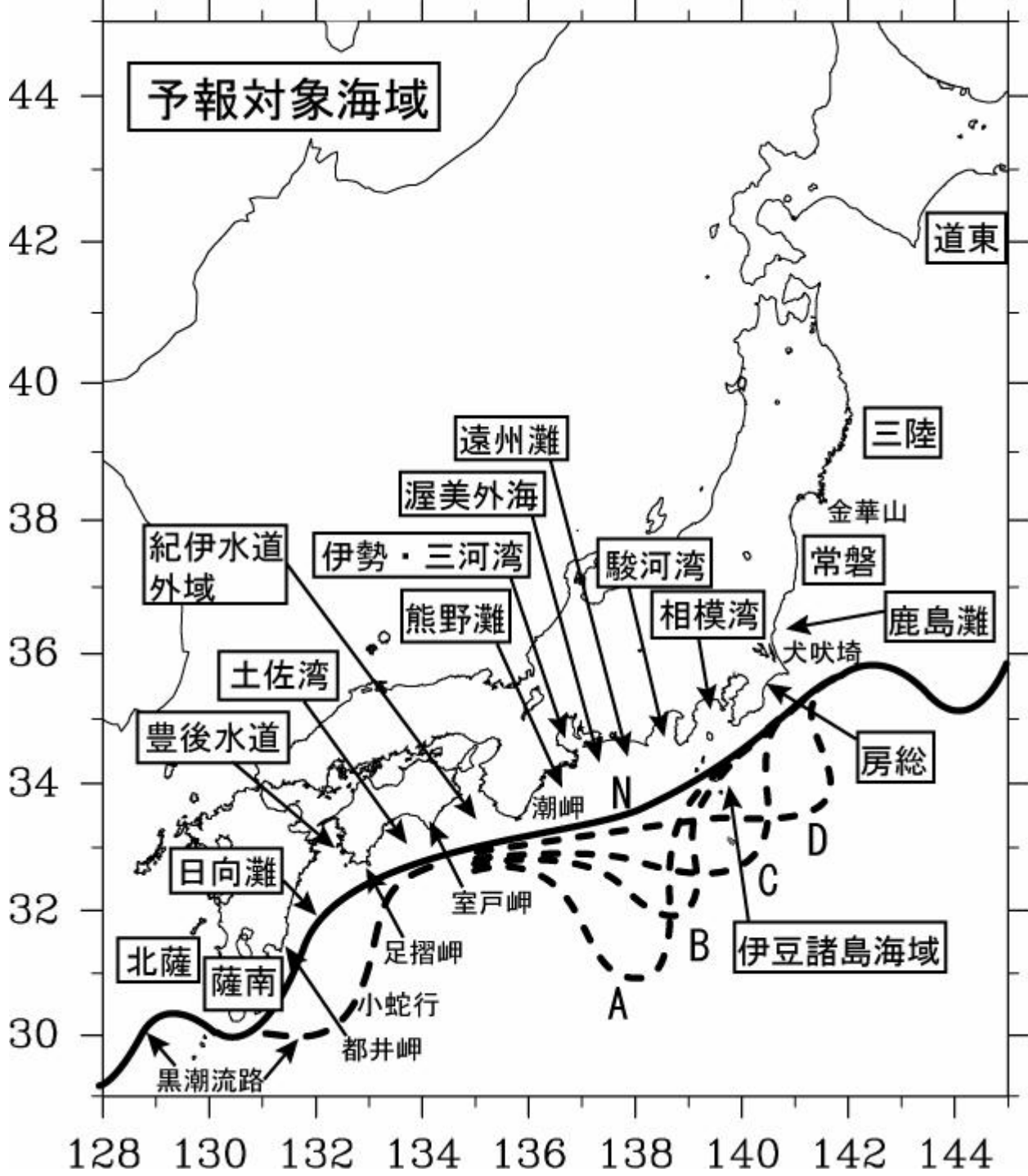
担当：市橋、生田

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>



中央ブロック海況予報

今後の見通し（2013（平成25）年4月～7月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと。）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、4月前半までは離岸傾向で、その後に接岸傾向となる。5月後半以降は小蛇行が形成され離岸傾向となる。
- ・足摺岬～潮岬沖では、接岸傾向であるが、4月と6月～7月に小蛇行の東進により一時的に離岸する。

◎潮岬以東

- ・4月以降はB・C型を繰り返す。

(2) 薩南～房総沿岸域

- ・潮岬以西では、黒潮の離接岸に伴って一時的に暖水が波及することがある。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、黒潮流路の変動に伴い、内側域への一時的な暖水波及がある。
- ・伊豆諸島南部海域は、黒潮流路がB型時には暖水域に、C型時には冷水域に入る。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・沿岸域へ暖水が波及することが多く、冷水の波及は少ない。

(4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は「平年並」～「高め」で推移する。小蛇行の東進に伴い変動する。
- ・熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部海域は、「平年並」～「低め」で推移する。暖水波及時には「高め」となる。
- ・伊豆諸島南部海域は、「平年並」～「高め」で推移する。黒潮流路がC型になったときは、「平年並」～「低め」となる。
- ・房総沿岸域は、4月前半まで「平年並」、4月後半以降「平年並」～「やや高め」で推移する。
- ・鹿島灘～常磐南部海域は、「高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上

経過 (2013年1月～3月) (注：経過は図2を参照のこと。)

(1) 黒潮

- ・12月上旬以降、C型で推移した。
- ・2月以降、概ねN型で推移した。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・12月～2月、黒潮北縁は屋久島南付近の平均的な位置で推移した。

◎潮岬以西

- ・1月、都井岬沖では「やや離岸」であった。
- ・1月下旬～3月上旬、都井岬沖の小蛇行の一部が東進し、足摺岬沖～潮岬沖を通過した。
- ・2月上旬、都井岬沖では「著しく離岸」し、中旬以降は「かなり離岸」で推移した。
- ・12月以降、潮岬沖では概ね接岸傾向で推移した。

◎潮岬以東

- ・12月～2月、熊野灘～遠州灘～伊豆諸島北部は、概ね冷水域に入っていた。
- ・1月下旬～3月、熊野灘～遠州灘へ断続的に暖水が波及した。
- ・2月上旬～3月中旬、伊豆諸島北部から駿河湾、相模湾へ暖水が波及した。
- ・2月以降、伊豆諸島南部海域は概ね暖水域に入った。
- ・野島崎沖での黒潮は、1月上旬に接岸傾向、1月中旬～2月中旬に離岸傾向、3月上旬は接岸傾向で推移した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・1月～3月上旬、黒潮からの暖水が広い範囲に波及していた。

現況（2013年3月13日現在）

(1) 黒潮

- ・ N型流路で推移している。

(2) 薩南～房総沿岸域

◎薩南海域

- ・ 黒潮北縁は離岸傾向で推移している。

◎潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬で「かなり離岸」、足摺岬～室戸岬で「やや離岸」、潮岬で「接岸」している。

◎潮岬以東

- ・ 熊野灘～遠州灘は概ね冷水域にある。
- ・ 伊豆諸島南部海域は黒潮の南の暖水域にある。
- ・ 野島崎沖で黒潮は概ね接岸している。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 黒潮系暖水の影響がある。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

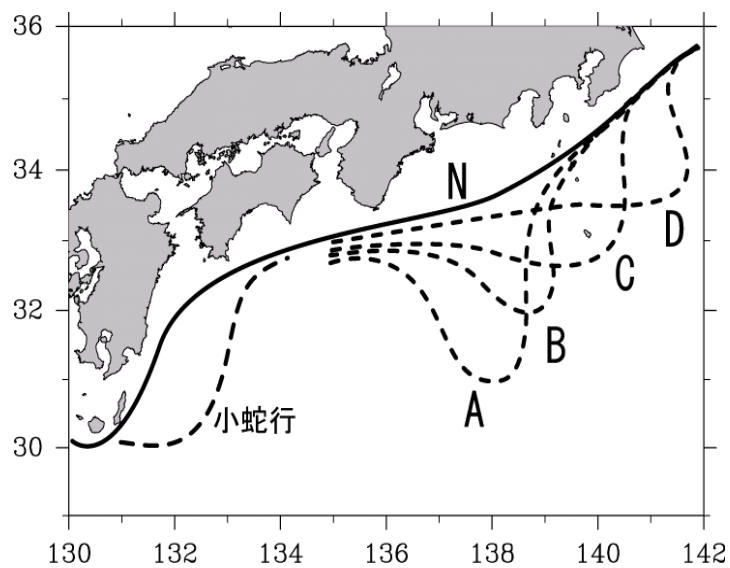


図1 黒潮流型の分類

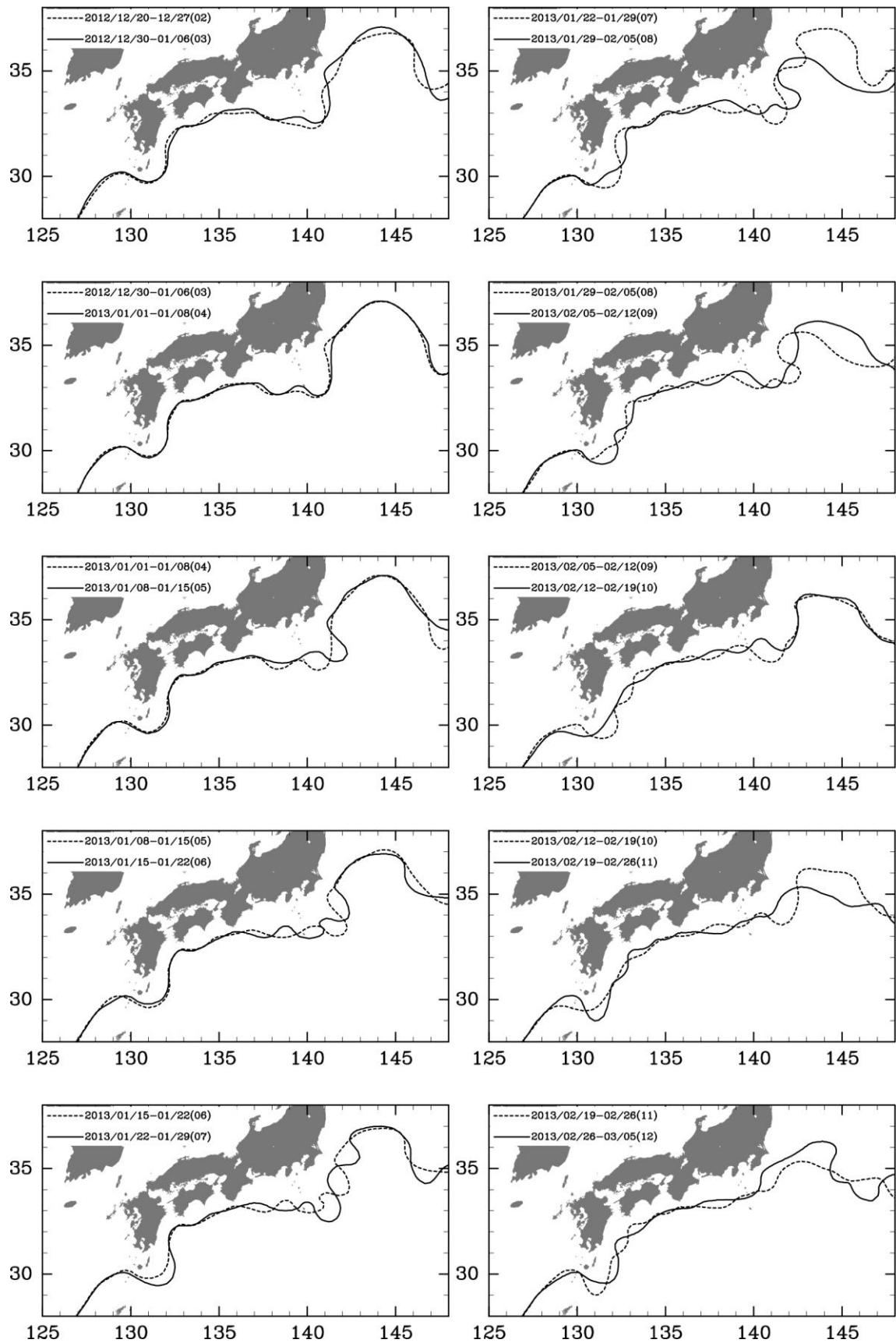


図2 黒潮流軸のパターン

(2013年1月~3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2013（平成25）年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2013（平成25）年級群）、1歳魚（2012（平成24）年級群）、2歳魚（2011（平成23）年級群）、3歳魚（2010（平成22）年級群）、4歳魚（2009（平成21）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 渥美外海～駿河湾のマシラス（船曳網）

(1) 来遊量：渥美外海では前年を上回るが、遠州灘駿河湾では前年を下回る。

(2) 漁期：渥美外海では4月～6月。遠州灘～駿河湾では3月下旬～5月。

2. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南では前年を上回る。日向灘～土佐湾では下回る。紀伊水道外域は前年並。熊野灘では前年並～上回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：期の前半は13cm～20cmの1歳魚を主体に20cm前後の2歳魚が混じる。期の後半には6cm～14cmの0歳魚が主体となる。

3. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海、駿河湾および相模湾南部では前年を上回る。相模湾北部では前年並～下回る。

(2) 漁期・漁場：伊勢・三河湾、渥美外海では4月以降に漁獲される。駿河湾、相模湾では概ね期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では0歳魚と1歳魚が対象となる。駿河湾、相模湾では14cm～18cmの1歳魚を主体に18cm～21cmの2歳魚が混じる。相模湾北部では期の後半に14cm未満の0歳魚も漁獲される。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：期を通じて房総～常磐南部海域にまき網漁場が形成される。常磐北部～三陸ならびに道東海域ではまき網漁場は形成されない。仙台湾～三陸南部の定置網については5月以降漁獲がある。

(3) 魚体：1、2歳魚を主体に3歳以上が混じる。1歳魚は13cm～18cm、2歳魚は17cm～21cm、3歳以上は19cm～23cm。

漁況の経過（2012年12月～2013年2月）および見通し（2013年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は1994年に100万トンを下回り、1999年までは70万～90万トン台で推移した後、再び減少傾向となった。2002年以降は20万トン未満で推移していたが、近年は増加傾向がみられる。

2009年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から、近年では比較的高い水準であることが示唆された。漁業においても、同年級群が0歳魚であった2009年漁期中は低調に推移したものの、1歳魚となった2010年漁期には2008年級群と共に房総～常磐海域におけるまき網で漁獲され、2年連続の好漁を支えた。2011年漁期においても房総～鹿島灘のまき網で漁獲されたが、全体に占める割合は2割以下となった。2012年漁期には房総～鹿島灘のまき網漁獲物中에서도ほとんど見られなくなった。前期熊野灘のまき網において2010年級群（年明け3歳魚）とともに年明け4歳魚の未成熟な親魚として漁獲されたが、残存資源量は少なく、今後は主たる漁獲対象にはならないと考えられる。

2010年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から、近年では極めて高い水準であることが示唆された。漁業においても、2010年秋以降の三陸・道東海域に出現した後、2011年漁期前半には房総

海域におけるまき網で多獲され、その後も漁獲の主体として2011年漁期の好漁を支え、未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は5.36と、最近10年間で最大となった。2012年漁期前半における房総周辺のまき網漁獲物中の同年級群（2歳魚）の割合は尾数比で全体の6割となり、また本年級群は秋季の道東海域における前年（約2千トン）および本年（約6千トン）の漁獲の主体となった。以上のように2010年級群は近年では非常に高い水準の年級群であり、今後も3歳魚として漁獲対象になると考えられる。

2011年級群は、0歳魚時点での調査船調査結果から、2010年級群には及ばないものの近年では比較的高水準の年級群であることが示唆された。2011年漁期の春～秋にかけて、東京湾以西の海域における0歳魚としての漁獲は前年を大きく上回り、また10月以降の八戸の2そうまきで0歳魚がまとまって漁獲されるなど、太平洋沿岸域の広い範囲で加入・漁獲があった。2012年漁期前半には熊野灘でも1歳魚として漁獲の主体となった。同年級群の未成魚越冬群資源量指数は0.65と2010年級群の1割強に留まったが、その後2010年級群2歳魚とともに常磐・房総海域におけるまき網漁獲物の主体となったことから、2011年級群は比較的高い水準の年級群であると考えられる。

2012年級群は、2012年5月～6月に実施された移行域幼稚魚調査（中央水研）に基づく加入量指数が1,119.4と前年の61.6を大きく上回り、2010年の1,213.1に匹敵する値を示し、その後実施された秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研）においては、2011年級群より低いものの近年では比較的高い水準の年級群であることが示唆された。漁業では、相模湾以西の沿岸各地で0歳魚の漁獲（マシラスを含む）が前年を下回ったものの、11月下旬以降の常磐・房総海域では前年の0歳魚（2011年級群）を上回って漁獲されている。また同年級群の未成魚越冬群資源量指数（千葉水総研）は2月末現在の暫定値ながらも1.70を示し、2005年級群、2008年級程度あるいはそれ以上の豊度であることが示唆されており、近年では高豊度の年級群であると考えられる。

2013年級群の、前期の太平洋沿岸におけるマシラスとしての出現状況であるが、土佐湾では前年を上回る漁獲があったのに対して、他の海域では前年を下回った。今後のマシラスとしての来遊には海況なども関係するため、海域によって予測は異なるものの、遠州灘以東の沿岸海域におけるマシラスの分布量は前年を下回ると考えられる。沖合における分布については、今後の調査船調査の結果を待って判断することとなる。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

1) マシラス

2012年12月から2013年3月にかけて、相模湾以西の太平洋沿岸各海域においてシラス漁あるいは試験操業がおこなわれた。土佐湾における前期のマシラス漁獲量は前年を上回ったものの、他の海域におけるシラス漁ならびに試験操業ではマシラスの漁獲量は前年を下回った。今期は潮岬以東における黒潮の流路がB・C型を繰り返すことが予測されているが、B型は渥美外海におけるマシラスの沿岸への来遊に好適であることから、渥美外海では不調であった前年を上回ると予測される。一方、遠州灘～駿河湾においては、これまでの調査船調査の結果からマシラスの分布量は少なく、前年を下回ると予測される。

2) 未成魚・成魚

(1) 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

来遊量：今期前半の主たる漁獲対象は1歳魚であり、これに2歳魚（熊野灘では3歳魚、4歳魚も）が加わる。期の後半には0歳魚主体の漁獲へと移行する。北薩海域および薩南海域では、前期は2012年級群（0歳魚）を主体に前年並の漁獲がみられた。特に1月以降まき網及び棒受網でまとまった漁獲がみられていることから、今期の来遊量は低調であった前年を上回ると予測される。日向灘から紀伊水道外域にかけての海域では、前期の明け1歳魚の漁獲はいずれも低調に推移した。このため、前年の来遊が好調であった海域においては、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。なお、紀伊水道外域については前年もごく低調な漁況であったので前年並となる。期の後半に土佐湾以西海域において漁獲の主体となる0歳魚の豊度については、まだ情報が少なく予測が困難であるが、その産卵親魚の漁況などから前年並～下回ると予測される。熊野灘における前期の中型まき網漁獲量は、前年を大きく上回る好漁となった。漁獲物の主体は明け1歳魚で、加えて2歳魚～4歳魚の成魚も併せて漁獲された。この明け1歳魚については今期も好調な来遊が期待

される。一方成魚については、特に3歳魚以上の成魚が熊野灘で漁獲されたことは近年では珍しいことではあるものの、熊野灘以西の西日本各地では漁獲がみられなかったことから、熊野灘が南下回遊の終端であった可能性も考えられる。その場合、今期の来遊量の大幅な増加は期待できない。0歳魚については1月に定置網に混入がみられ、3月にもそれらの群れが成長したと考えられる個体がカタクチイワシに混入していた。また、土佐湾では12月にマシラスが好漁との情報があり、熊野灘への幼魚の加入について良い条件が重なっていることから、極めて好漁だった前年には及ばないものの、今期も高豊度の来遊が期待される。これらを総合すると、今季の来遊量は前年並～上回ると予測される。

漁期：期を通じて漁獲される。

魚体：体長13cm～20cmの1歳魚が期の前半における漁獲の主体となり、体長20cm前後の2歳魚が混じる。熊野灘では体長20cm以上の3歳魚以上の個体も混ざる。期の後半に漁獲される0歳魚は体長6cm～14cm。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

来遊量：今期の伊勢・三河湾、渥美外海で漁獲の主体となるのは0歳魚で、これに1歳魚が混じる。今期は、各地で好漁であった2010年級群、2011年級群が親魚となり、高豊度の0歳魚を発生させることが期待される。また今期の潮岬以東における黒潮流路はB・C型を繰り返すことが予測されているが、このうちB型流路はマシラスや小型未成魚の沿岸への来遊に適している。これらのことから、来遊量は前年を上回ると予測される。駿河湾、相模湾での今期の漁獲主体は1歳魚で、2歳魚がこれに混じる。さらに期の後半には相模湾北部において0歳魚も漁獲される。駿河湾、相模湾ともに2012年漁期は低調な漁況で推移していたが、本年2月に駿河湾のまき網にて好漁がみられ、前年の漁獲量を大きく上回った。この結果から、今期の駿河湾ならびに相模湾南部における来遊量は低調であった前年を大きく上回ると予測される。一方、相模湾北部では2011年漁期より現在に至るまで2012年級群（明け1歳魚）の漁獲は低調で、また2歳魚の相模湾への来遊は海況に依るところが大きく、現時点で来遊量を予測することが難しいことを考え合わせると、今期の相模湾北部における来遊量は前年並～下回ると予測される。以上を総合すると、駿河湾および相模湾南部における来遊量は低調であった前年を大きく上回り、一方相模湾北部における来遊量は前年並～下回る。

漁期・漁場：伊勢・三河湾、渥美外海では4月以降に漁獲される。駿河湾、相模湾南部のまき網では期を通じて散発的に漁獲される。相模湾北部（神奈川県域）では期を通じて漁獲される。

魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では0歳魚および1歳魚。駿河湾、相模湾では14cm～18cmの1歳魚を主体に18cm～21cmの2歳魚が加わる。相模湾北部では期の後半に14cm未満の0歳魚も漁獲される。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

来遊量：今期漁獲物の主体となるのは1歳魚と2歳魚で、これに3歳魚が加わる。1歳魚は、昨年11月以降常磐・房総海域のまき網にまとまって出現し、その未成魚越冬群資源量指数は2月現在での暫定値で1.70と近年では高豊度の年級である可能性を示した。また12月以降は三陸定置にも出現している。これら好調な漁獲状況を考慮すると、今期の1歳魚としての来遊は、前年の1歳魚（2011年級群）並～上回ると予測される。2歳魚は、卓越年級群であった2010年級群には及ばないものの、近年では比較的高水準の年級群であり、2011年漁期には2010年級群とともに漁獲の主体となった。また前期の三陸定置においても出現しており、量的には前年の2歳魚を下回るものの、今期も来遊が予測される。3歳魚は、近年では非常に高い水準の卓越年級群であり、本海域における2011年・2012年漁期の漁獲の主体となった。2011年秋季以降は出現頻度が低下しており、残存資源量について議論があるものの、これまで3歳魚以上の高齢魚が漁獲物に占める割合が極めて低かったことを考えれば、今期の3歳魚の来遊量は前年を上回ると予測される。以上を総合すると、好漁であった前年並の来遊量と予測される。

漁期・漁場：まき網漁場は、房総海域～常磐南部海域に、4月～5月にかけては断続的に、その後6月にはまとまって形成される。常磐北部海域は、現在まき網の操業自粛措置がとられている。仙台湾～三陸海域ならびに道東海域では、今期はまき網漁場は形成されない。仙台湾～三陸南部の定置網においては、5月以降漁獲がある。

魚体：1歳魚と2歳魚が漁獲の主体となり、3歳以上が加わる。魚体は、1歳魚については4月～5月は13cm～16cm、6月～7月には15cm～18cm。2歳魚は17cm～21cm、3歳以上は19cm～23cmとなる。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2013（平成25）年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2013（平成25）年級群）、1歳魚（2012（平成24）年級群）、および2歳魚（2011（平成23）年級群）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 西薩～常磐南部のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～豊後水道では予測が困難。土佐湾では前年並。渥美外海～相模湾では前年を上回る。鹿島灘～常磐南部では前年並。

(2) 漁期：全期間。

2. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南および豊後水道南部東側では前年を下回る。日向灘では前年並～上回る。豊後水道南部西側では前年を上回る。土佐湾では前年並～下回る。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：全期間。

(3) 魚体：10cm～14cm（1歳魚・2歳魚）主体。期後半に8cm以下（0歳魚）も漁獲される。

3. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘では前年を下回る。伊勢・三河湾～渥美外海では前年を上回る。駿河湾～相模湾南部では前年並。相模湾北部では前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：全期間。

(3) 魚体：10cm～14cm（1歳魚・2歳魚）主体。期後半に8cm以下（0歳魚）も漁獲される。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年を下回る。道東の定置網ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期・漁場：常磐・房総海域は6月まで。三陸の定置網は5月以降。

(3) 魚体：10cm～12cmの1歳魚主体。12cm～14cmの2歳魚は少ない。

漁況の経過（2012年12月～2013年2月）および見通し（2013年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の推定資源量は1998（平成10）年から2010（平成22）年まで70万～150万トンで推移し、2011（平成23）年の資源量は59万トンと推定された。資源水準は過去30年で中位、動向は5年間で減少傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2011年級群（2歳魚）は、2011年の秋季北西太平洋中層トロール調査（中央水研、9月～10月）において10cm未満の魚体で漁獲されており、有漁点CPUEは2001年以降で最高であった。一方、秋季の道東海域の流し網調査（釧路水試）や道東まき網の漁獲物では0歳魚は見られず、房総海域の夏秋季の2そうまきでは前年を上回ったが高水準ではなかった。前年11月～本年6月までの常磐房総海域での12cm未満（1歳

魚主体)の漁獲量は47千トンで、獲り控えによる漁獲減少の影響があったにも関わらず、前年(24千トン)、前々年(38千トン)を上回った。また、本年の秋季北西太平洋中層トロール調査においては10cm以上の魚体として漁獲され、有漁点CPUEは高い水準ではないものの過去3年を上回った。以上の状況から、2011年級群は最近10年の中で見れば中水準と考えられる。

2012年級群(1歳魚)は、シラス漁況は春季に全体として不漁であったが、夏季以降に多くの海域で好漁に転じ、海域によっては引き続き秋季に未成魚として好漁となった。一方、0歳魚を主たる対象とする夏秋季の房総沿岸2そうまきは前年を下回った。沖合域では、本年の北西太平洋サンマ資源調査(東北水研、6月~7月)における10cm未満の推定現存尾数は2001年以降で最低で、秋季北西太平洋中層トロール調査でも2001年以降で2004年級群に次いで低い水準であると示唆された。以上のように、2012年級群のうち沖合群が低水準であるため、資源量としては低水準と言えるが、夏季以降の沿岸群が前年を上回る海域もある。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 西薩~常磐南部のシラス(船曳網)

西薩~豊後水道では、2月までの漁況では成魚の来遊が少なく、今後大型成魚(2歳魚主体)の来遊が期待されるものの、シラスの漁場形成へ繋がるかの予測が困難である。土佐湾では、成魚の動向や近年のシラス漁況経過等から、来遊量は前年並と予測される。渥美外海では、今期の黒潮流路が当該海域へのシラスの来遊に適したB型を繰り返すと予測されることから、来遊量は前年を上回ると考えられる。遠州灘~駿河湾では、系群全体の親魚量と3月~6月のシラス漁獲量との関係等から、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。相模湾では、産卵親魚となる大型成魚の来遊が少なくシラスの漁況は低調になると考えられるが、前年が特異的な不漁であったこと、および禁漁期の調査結果が前年を上回ったことから、来遊量は前年を上回ると予測される。鹿島灘~常磐南部では、海洋観測の結果から2月は暖水傾向でありシラスの来遊条件としては良いが、親魚の資源水準が低いいため、来遊量は中漁水準で前年並と予測される。

(2) 北薩~紀伊水道外域(まき網、定置網)

北薩~薩南海域では、1月~2月の来遊量が少なかったことから、前年を下回ると予測される。日向灘~土佐湾の大型成魚(2歳魚主体)については、熊野灘における前年12月~本年2月の漁獲量が前年並で魚体が常磐・房総海域からの南下群と考えられる12cm~14cmの群であったことから、ある程度の来遊が期待される。日向灘では、前年のシラスおよび小型まき網の漁況から、今期後半に出現する地先由来の1歳魚(10cm~11cm主体)が前年を上回ると考えられ、大型成魚の来遊も期待されることから、今期の来遊量は前年並~上回ると予測される。豊後水道南部東側でも大型成魚の来遊がある程度期待されるが、同海域周辺では地先由来の1歳魚が少ないと考えられるため、来遊量は好漁の前年を下回ると予測される。豊後水道南部西側では、今期の漁獲量に対する大型成魚の影響が近隣海域ほど顕著でなく、地先由来の1歳魚は前年のシラス漁況等から前年を上回ると考えられるため、来遊量は前年を上回ると予測される。土佐湾では、大型成魚の来遊が漁獲に結びつくかの判断が困難で、2月までの漁況が低調であったことから、来遊量は前年並~下回ると予測される。紀伊水道外域では未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではないため、まとも

った漁獲は無い。

(3) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

熊野灘では、道東や常磐・房総海域から南下回遊する群が冬春季の漁獲の主体となる。熊野灘では前年12月から12cm～14cmの2歳魚（2011年級群）主体の大型群が来遊し漁獲量は前年を上回ったが、今後は低水準の1歳魚（2012年級群）が主体の漁況に移行するため、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。伊勢・三河湾～渥美外海では、4月以降に1歳魚（2012年級群）が主な漁獲対象となるが、同海域における前年秋季のシラスが好漁で前年を上回ったことから、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。駿河湾～相模湾南部では、常磐・房総海域から南下回遊する大型成魚が既に来遊し漁獲されていることや、北部太平洋大中型まき網における資源量指数等の推移から、前年並と予測される。相模湾北部では、2月までの大型成魚の来遊量が少なく、今後も低調と考えられるため、前年を下回ると予測される。

(4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

常磐・房総海域における前年12月～2月の漁獲量は23千トンで、前年同期の34千トンを下回った。漁獲物の構成は、12cm以上（2011年級群主体）が17千トンで前年同期並、12cm未満（2012年級群主体）が6千トンで前年同期の1/3であった。例年、3月以降は1歳魚が主体の漁況となるところ、今期の1歳魚である2012年級群は低水準で、2月までの漁獲量も少ないため、来遊量は前年を下回ると予測される。漁場および体長については近年の傾向および最近の漁獲物の体長から判断した。

三陸の定置網では例年5月から水揚げがあるが、常磐・房総海域の予測および各年級群の資源状態から、来遊水準は前年を下回ると予測される。

道東の定置網では、予測期間中の来遊は前年同様、ほとんど無いと考えられる。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場</p>	<p>和歌山県水産試験場</p>
<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所</p>
<p>岩手県水産技術センター</p>	<p>高知県水産試験場</p>
<p>宮城県水産技術総合センター</p>	<p>愛媛県農林水産研究所 水産研究センター 栽培資源研究所</p>
<p>福島県水産試験場</p>	<p>大分県農林水産研究指導センター 水産研究部</p>
<p>茨城県水産試験場</p>	<p>宮崎県水産試験場</p>
<p>千葉県水産総合研究センター</p>	<p>鹿児島県水産技術開発センター</p>
<p>東京都島しょ農林水産総合センター</p>	<p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター</p>
<p>神奈川県水産技術センター</p>	<p>香川県水産試験場</p>
<p>静岡県水産技術研究所</p>	<p>社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
<p>愛知県水産試験場 漁業生産研究所</p>	<p>(取りまとめ機関)</p>
<p>三重県水産研究所</p>	<p>独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所</p>